

医学教育分野別評価
東京女子医科大学医学部医学科
年次報告書
2021 (令和 3) 年度



令和 3 年 8 月
東京女子医科大学医学部医学科

医学教育分野別評価 東京女子医科大学医学部医学科 年次報告書 令和 2 年度

医学教育分野別評価の受審(令和 2)年度 受審時の医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.2
本年次報告書における医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.32

1. 使命と学修成果

領域 1.3、1.4 における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、アウトカム、アウトカム・ロードマップの修正を行っている。学生代表を含む教育に関わる主要な構成者の委員会への参画を随時進めているが、患者代表、一般市民の参画はコロナウイルス感染症蔓延のため進んでおらず今後の課題といえる。

1.3 学修成果

基本的水準：適合

改善のための助言

ビジョン 2020 や、三つのポリシーの見直しなどの変化があった際には、必要に応じて学修成果およびアウトカム・ロードマップに反映させるべきである。

改善内容や今後の計画

アウトカムおよびアウトカム・ロードマップの見直しおよび修正を行っている。医学教育の質向上委員会で討議の上、修正案を医学教育審議会へ発議する。ホームページや学生便覧への卒業時コンピテンシーの掲載を継続して実施した。

改善状況を示す根拠資料

資料 1-3-1 2021 年度 学生便覧

質的向上のための水準：部分適合

改善のための示唆

国際保健に関して、学修成果およびアウトカム・ロードマップの中で明示することが望まれる。

改善内容や今後の計画

国際保健に関しては 第 4 学年 セグメント 7 科目名社会制度と保健・医療・福祉の中で 32 世界の公衆衛生学・社会医学・医療人類学 科目名 環境と健康・疾病・障害 の中で 20 世界の保健問題(1) 24 世界の保健問題(2) で扱っている。学修成果およびアウトカム・ロードマップの中への明示を予定している。

1.4 使命と成果策定への参画

基本的水準：部分的適合

改善のための助言

使命と学修成果を見直す際は、学生代表を含む教育に関わる主要な構成者が参画すべきである。

改善内容や今後の計画

使命と学修成果の見直しは医学教育の質向上委員会でを行うため、医学教育の質向上委員会、教務委員会の規程を修正し、随時学生代表を含む教育に関わる構成者が参画する委員会で見直しできるように整えた。

改善状況を示す根拠資料

資料 1-4-1 医学教育の質向上委員会内規

資料 1-4-2 医学部教務委員会規程

質的向上のための水準

改善のための示唆

広い範囲の教育の関係者を定義し、それらが使命と卒業時コンピテンシーの作成や改定に参画することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

「広い範囲の教育の関係者」として、患者代表、一般市民の「医学教育の質向上委員会」への参加を病院の協力を得て要請中である。コロナウイルス感染が終息し次第着手する予定である。

改善状況を示す根拠資料

資料 1-4-3 医学教育に関わる委員会への患者代表・一般市民の代表の参加

2. 教育プログラム

2.2 科学的方法

基本的水準：部分的適合

改善のための助言

診療参加型臨床実習で EBM を実践すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

改善案 : 「アウトカム・ロードマップの I-1-B, I-3-A, I-3-B, I-5-B を見直し、EBM の文言を入れる」

改善内容 1 : セグメント 7「情報処理・統計」で EBM 主体の実践的講義内容に変更したので、教育の量と質については大幅な改善を行った。一方、アウトカム・ロードマップの表には反映されていないので、表の改定が必要である。

改善内容 2 : セグメント 9 における FD の充実はコロナ感染症のため、十分に実施できていない。

改善状況を示す根拠資料

資料 2-2-1 セグメント 7 学修の手引(情報処理・統計)

資料 2-2-2 学修の手引「アウトカム・ロードマップ」

2.3 基礎医学

質的向上のための水準

改善のための示唆

現在および将来的に社会や医療システムにおいて必要になると予測されることを基礎医学のカリキュラムの中で検討することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

「現在および将来的に社会や医療システムにおいて必要となると予測されること」を検討するために、基礎医学教育の内容の見直しを行う。具体的には、医学教育モデルコアカリキュラム平成 28 年度版で強化された腫瘍および遺伝について基礎医学系の科目内での科目内容を充実させる。「遺伝と遺伝子」で疾患へ繋がる講義を組込済みであり、一部の科目では反映されているが、引き続き検討する。

改善状況を示す根拠資料

資料 2-3-1 令和 2 年度 セグメント 2 学習の手引(遺伝と遺伝子)

2.5 臨床医学と技能

基本的水準：部分的適合

改善のための助言

プライマリ・ケアを含む臨床現場において、計画的に患者と接する教育プログラムの期間を十分に持つべきである。

健康増進と予防医学の体験を増やすべきである。

重要な診療科である精神科で学修する時間をより充実させるべきである。

重要な診療科としての総合診療科/家庭医学の学修を確実に行うべきである。

医療安全の教育を確実に行うべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

改善案 1 : 第 4 学年で入門型臨床実習を導入する。

改善内容 1 : 第 4 学年での入門型臨床実習は、学生が外来診療を見学して臨床推論を学修する計画であったが、新型コロナウイルス感染症のため、直接的に患者さんに接することは達成できず、動画配信などで代替した。カリキュラムでの臨床推論の学修の枠組みは試行できたので、新型コロナウイルス感染症が終息すれば患者に接する教育プログラムの増加を達成できると期待している。

改善案 2 : 健康増進と予防医学についてアウトカムを策定しアウトカム・ロードマップを作る。

改善内容 2 : 実習に関しては新型コロナウイルス感染症の影響で、現在進展なし。

改善内容 3 : 実習に関しては新型コロナウイルス感染症の影響で、現在進展なし。

改善状況を示す根拠資料

資料 2-5-1 令和 2 年度 セグメント 8 学習の手引(入門型臨床実習)

質的向上のための水準：部分的適合

改善のための示唆

少子高齢社会において地域包括ケアなど、社会や医療制度上必要になることの教育を充実させることが望まれる。

学生が早期から患者と接触する機会を持ち、徐々に患者診療への参画を深めることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

改善案 1 : 地域包括ケアなど、社会や医療制度上必要になることの教育を充実することが必要である。

改善内容 1 : 対策は遅れている。

改善案 2 : 低学年の「至誠と愛」の実践学修実習において「診療」を行う。または入門型臨床実習を縦断科目にする。

改善内容 2 : 低学年の「至誠と愛」の実践学修実習における患者との接触は、新型コロナウイルス感染症の蔓延のために実施に至っていない。

改善状況を示す根拠資料

資料 2-5-2 令和 2 年 12 月度「至誠と愛」の実践学修－医療・患者安全学教育委員会議事録

2.7 プログラム管理

基本的水準：部分的適合

改善のための助言

教育カリキュラムの立案と実施に責任と権限を持つ教務委員会に学生の代表を含めるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

改善案 1 : 教育委員会に学生の代表の参加を求める。

改善内容 1 : 教育委員会に学生の参加が行われた。

改善状況を示す根拠資料

資料 2-7-1 令和 2 年度カリキュラム懇談会議事録

質的向上のための水準：部分的適合

改善のための示唆

教務委員会に広い範囲の教育の関係者を含むことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

学外有識者等の参加が望まれるが、現時点では実施できていない。

改善状況を示す根拠資料

資料 2-7-2 令和 3 年 1 月度教務委員会議事録

2.8 臨床実践と医療制度の連携

基本的水準：部分的適合

改善のための助言

教育・研修体制や事務組織を整備し、卒前教育と卒後の教育・臨床実践の連携を適切に行うべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

改善案 : 卒前教育と卒後教育・臨床実践の連携を行う。

改善内容 : 卒前教育と卒後教育・臨床実践の連携は、教務委員会に卒後臨床研修センター長の出席を求め、情報共有している。

改善状況を示す根拠資料

資料 2-8-1 令和 3 年 6 月度教務委員会議事録

質的向上のための水準：部分的適合

改善のための示唆

卒業生が将来働く病院などからの情報を得て、教育プログラムを適切に改良することが望まれる。

教育プログラムの改良には、地域や社会の意見を取り入れることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

改善案 1 : 卒業生アンケートを実施し、本学の教育プログラムに関するコメントをもらう。

改善内容 1 : 卒業生アンケートを実施し、本学の教育に対するフィードバックを蓄積している。また、それを教育審議会、教育の質向上委員会等で展開している。

改善案 1 : 教育プログラムの改良のため、患者代表の意見を聴く。医学教育質向上委員会に患者代表の参加を要請する。

改善内容 2 : 未実施である。

改善状況を示す根拠資料

資料 2-8-2 2020 年度卒業生調査実施報告書

3. 学生の評価

3.1 評価方法

基本的水準：部分的適合

改善のための助言

教員の親族などが試験を受ける際の取り決めを作るなど、評価方法および結果に利益相反が生じないようにすべきである。

評価に対する疑義申立て制度を設け、明文化すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教員の親族などが試験を受けるに際し、まず親族の定義を定め、親族であることの申告を義務化し、教員は試験の作成から評価まで参加できないこととする。さらに、教員が学生の父母であった場合の評価について、実務として学生教育は担当するが、評価については他の教員に依頼し、セグメント教育委員長または同科目(診療科)の教授が評価を行うよう規定を定める予定である。

試験問題に疑義が生じた場合は、受験生の代表の学生は科目責任者に試験日から 2 日以内(試験日を含めない)に連絡すること、と学生便覧に記載されている。

評価に対する疑義の申し立てについては、学生の代表者がとりまとめて、学年担任(評価者である科目責任者・教育委員会等とは独立しており、中立の立場で対応を行う)を通じて科目責任者に異議申し立てを行う制度を定め学生便覧に記載する予定である。

改善状況を示す根拠資料

資料 3-1-1 令和 2 年 12 月度医学部教務委員会議事録

資料 3-1-2 学生便覧 2021 P29

3.2 評価と学修との関連

質的向上のための水準：適合

改善のための示唆

試験問題や模範解答の公開をさらに進めることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

臨床分野の MCQ 形式の試験は、学生ポータルサイトの「キャビネット」機能を用いて、権限を割り当てられた学生・教職員が、学内に限って利用できるファイル共有機能を使用して、科目の試験問題、解答・解説を公開している。学生は在学中、学年を問わず閲覧およびダウンロードが可能である。科目責任者は「キャビネット」機能を使用して試験問題、解答、解説をアップロードする。

基礎分野では筆記形式が多く、CBT などを視野に入れた MCQ 形式の問題を出題することや解答の提示方法について教務委員会や基礎教室運営委員で検討していく。

改善状況を示す根拠資料

資料 3-2-1 令和 2 年 11 月度医学部教務委員会議事録

資料 3-2-2 令和 3 年 4 月度医学部教務委員会議事録

資料 3-2-3 医学部科目試験における本試の試験問題と解答・解説のポータル掲載について

4. 学生

4.1 入学方針と入学選抜

質的向上のための水準：部分的適合

改善のための示唆

入学決定に対する疑義申し立て制度を採用することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

一般選抜第1次試験の不合格者に限り、申請のあった者に学科得点を開示している。要領は大学HP医学部受験案内に常時掲載し受験生がアクセスしやすいように改善した。

入学決定に対する疑義申し立ての制度化については、入学決定は学科のみならず、面接、小論文など複数の観点から判断され、推薦入試、一般入試の学科以外の成績開示にも関連するため、理事会、教育審議会、入試検討委員会で慎重に検討を進める。

改善状況を示す根拠資料

資料 4-1-1 <http://www.twmu.ac.jp/univ/medical/m-ent/ippan.php>

資料 4-1-2 令和3年度一般選抜第1次試験における個人成績開示について

4.4 学生の参加

基本的水準：部分的適合

改善のための助言

使命の策定、教育プログラムの策定、管理、および学生に関する諸事項を審議する委員会に学生の代表が参加し、適切に議論に加わることを規定し、履行すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育プログラムの策定、管理、および学生に関する諸事項を審議する委員会である、教務委員会、学生委員会、医学教育の質向上委員会では学生の参加を規定している。具体的には、教務委員会は学生カリキュラム委員、学生委員会は学生厚生委員、医学教育の質向上委員会は学生委員会が指名する学生、を必要に応じ出席を求めることができる旨、規程または内規に明示した。(資料 01-03)

上記とは別に、学生カリキュラム委員・医学部長・教務委員会の委員で構成されるカリキュラム懇談会、学生厚生委員・学生委員で構成される厚生懇談会が定期的に開催され、教育プログラムおよび学生に関する諸事項を議論している。(資料 04-06)

今後、教務委員会、学生委員会、医学教育の質向上委員会へ、学生が必要に応じ参加し、議論に加わるよう計画する。

改善状況を示す根拠資料

資料 4-4-1 医学部教務委員会規程

資料 4-4-2 医学部学生委員会規程

資料 4-4-3 医学教育の質向上委員会内規

資料 4-4-4 医学部カリキュラム懇談会規程

資料 4-4-5 厚生懇談会規程

資料 4-4-6 令和2年度第2回カリキュラム懇談会議事録

6. 教育資源

領域6 講評と基本的水準における「改善のための助言」では、学生が確実に必要な臨床経験を積める体制を整備すべきと指摘を受けた。附属病院を含めて、自己学習のためのコンテンツの提供および情報へのアクセス環境を充実すること、診療参加型臨床実習を実践するために学生の電子カルテへの記載を確実にできるような改善が今後の課題である。

6.2 臨床実習の資源

基本的水準：部分的適合

改善のための助言

プライマリ・ケアを含め、学生が確実に必要な臨床経験を積める体制を整備すべきで

ある。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

評価報告書の指摘事項を受け、必要な臨床経験を積める体制を整備すべきと判断した。

必要な臨床経験を体験できるよう、臨床実習ノートに症例、症候、医行為等々のチェックリスト、mini CEX 記録の一元化などの改良を行い、令和3年度4月にリリースした。今後は、教学IR室との協同により新臨床実習ノートの分析を行い。各学生の経験症例に欠落や偏りがないように務める。

大学病院および附属医療施設の特徴に配慮し、必要な臨床経験を積めるよう他病院での臨床実習を拡大して行いこととした。令和2年4月より都立松沢病院との協定を結び、同院での臨床実習を開始した。

総合診療・一般内科外来、救急外来部門での実習時間の確保、増加を計画する実習に関しては新型コロナウイルス感染症の影響により、現在進展はない。

改善状況を示す根拠資料

資料 6-2-1 臨床実習ノート操作説明書

6.3 情報通信技術

質的向上のための水準：部分的適合

改善のための示唆

附属病院を含めて、自己学習のためのコンテンツの提供および情報へのアクセス環境を充実させることが望まれる。

診療参加型臨床実習を実践するために学生の電子カルテへの記載を確実に行うことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

指摘を受け、直ちに自己学習のためのコンテンツに容易にアクセスできるよう、図書館のホームページ上に EBM ツールをとりまとめたページを設置した。

診療参加型臨床実習を実践するために学生への電子カルテへの記載を確実に行うことができるよう、診療参加型臨床実習開始前に、入門型臨床実習カリキュラムをもうけ、この臨床実習で、カルテの記載を学ぶ機会を設けた。さらに、診療参加型臨床実習において、学生のカルテ記載を、指導医、上級医の確認、承認制度の確率を目指している。

今後学生が電子カルテへのアクセスを容易にするために、学生用電子カルテ端末の増設を検討しているが、病院で使用している電子カルテシステムが今後、変更が見込まれており、増設は現時点では行えていない。

改善状況を示す根拠資料

資料 6-3-1 図書館 EBM ツール

資料 6-3-2 セグメント7学習の手引(入門型臨床実習)

6.4 医学研究と学識

質的向上のための水準：適合

改善のための示唆

「研究プロジェクト」後に、学生が研究を継続できる環境のさらなる充実が望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

研究プロジェクトで着手した研究をその後も継続してゆくために、上級に進んだ後もより深めた内容を学会で発表を行うことを推進している。また、研究内容を論文投稿した際には、表彰を行うことが行われるようになっている。

改善状況を示す根拠資料

資料 6-4-1 令和 2 年 2 月度教務委員会議事録(学会発表の出張許可申請書)

資料 6-4-2 令和 2 年 2 月度研究プロジェクト教育委員会議事録

7. プログラム評価

7.1 プログラムのモニタと評価

基本的水準：適合

改善のための助言

学生の教育進捗をモニタし、個々の学生の成長を評価できるシステムを充実させるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

学生の教育進捗をモニタするため、個々の学生の成長を各学年連続的に観察・記録できるシステムの導入を検討している。具体的には、学生の評価について低学年から研修医まで連続性のシステム、EPOC2、の活用を検討している。導入に伴い、各学生の 6 年間にわたる学習 Portfolio の作成を行い、学習進捗の観察と feedback をおこなっていきたいと考えている

改善状況を示す根拠資料

資料 7-1-1 EPOC2 システムの概要

7.2 教員と学生からのフィードバック

基本的水準：部分的適合

改善のための助言

すべての教員から、系統的にカリキュラム全体に関する意見を収集すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

全学内の教員を対象に、系統的にカリキュラムに関する意見を収集した。方法として、年 1 回 PC 上で、アンケートの形式で助教以上の全職員からセグメント毎のカリキュラムに関する意見の収集をおこなった。これらアンケート結果をまとめ、教務委員会で検討し、教員に結果の Feedback をおこなった。

改善状況を示す根拠資料

資料 7-2-1 2020 年度講義受講後アンケート_講義復習テスト解析(医)_IR 報告

質的向上のための水準：部分的適合

改善のための示唆

教員のフィードバックの結果を利用してプログラムの開発を行うことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

各講義に対する学生の理解度を双方向で確認するために、授業評価アンケートと連動し共通のフォームを用いた、小テストシステムを構築した。それらの結果を教員にフィードバックし学生の理解度を高める授業に反映できるよう、今年度よりトライアル的に開始した。

改善状況を示す根拠資料

資料 7-2-1 令和 2 年 9 月度教務委員会議事録

資料 7-2-2 医学部_前記分_講義受講後アンケート

7.3 学生と卒業生の実績

基本的水準：部分的適合

改善のための助言

卒業生の実績に対して、より網羅的な情報収集と分析を定期的実施すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

卒業生の実績や現在の勤務、キャリア形成の実態を調査するアンケートを2019年度と2020年度に行った。2019年度に卒後20年、30年、40年、50年、60年となる本学卒業生311名と2020年度卒業生調査全233名の回答が得られた。得られたデータを解析し、卒業生の「キャリア構築方法」、「現況」および「卒業後のニーズ」等をまとめ、委員会で検討した。今後も同様の定期的な情報収集を実行し、女性の生涯を通じたキャリア構築に対する卒後サポートを実行し、本学における医学部在学中から生涯にわたっての医学教育の質を保証していくためにデータを活用していく。

改善状況を示す根拠資料

資料 7-3-1 2020年度卒業生調査実施報告(第一報)

資料 7-3-2 2019年度教卒業生調査報告書要旨

質的向上のための水準：部分的適合

改善のための示唆

卒業生の実績に対して、より網羅的な情報収集と分析を定期的実施し、責任がある委員会へフィードバックすることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

卒業生の実績や現在の勤務、キャリア形成の実態を調査するアンケートを2019年度と2020年度に行った。2019年度に卒後20年、30年、40年、50年、60年となる本学卒業生311名と2020年度卒業生調査全233名の回答が得られた。得られたデータを解析し、卒業生の「キャリア構築方法」、「現況」および「卒業後のニーズ」等をまとめ、医学教育の質向上委員会で検討した。今後も同様の定期的な情報収集を実行し、女性の生涯を通じたキャリア構築に対する卒後サポートを実行し、本学における医学部在学中から生涯にわたっての医学教育の質を保証していくためにデータを活用していく。

改善状況を示す根拠資料

資料 7-3-3 2020年度卒業生調査実施報告(第一報)

資料 7-3-4 2019年度教卒業生調査報告書要旨

7.4 教育の関係者の関与

基本的水準：部分的適合

改善のための助言

プログラムのモニタと評価に関わる「自己点検・評価審議委員会」および「医学教育の質向上委員会」への、職員および学生代表の委員としての参画を実質化すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教員や学生の教育プログラムのモニタや評価の関与を促すため、年2回ほど、カリキュラム懇談会(委員会)(特に検討内容を踏まえた検討を行う回)でカリキュラム委員の学生代表と学務の担当職員の参加を検討した。

改善状況を示す根拠資料

資料 7-4-1 令和2年度カリキュラム懇談会議事録

質的向上のための水準：部分的適合

改善のための示唆

プログラムの評価の結果について、教育の関係者に対する開示に関する方針を定めることが望まれる。

広い範囲の教育の関係者に、卒業生の実績に対するフィードバックを求めることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

本プログラムの審査結果、また他の外部評価結果を大学ホームページ上で学内外に開示を行う方針について、規約(質向上委員会内規)に明記した。大学ホームページ上では、日本医学教育評価機構(JACME)評価・審査結果(http://www.twmu.ac.jp/univ/certification_jacme.php)、文部科学大臣の認証評価(<http://www.twmu.ac.jp/univ/certification.php>)、西太平洋地区医学教育連盟の評価・審査結果(http://www.twmu.ac.jp/univ/evaluation_report.php)が閲覧できるようになっている。

また、卒業生の実績、アンケート結果を学内外の教育者に向けて開示する旨、規約(質向上委員会内規)に明記した。学外にむけては大学ホームページにて卒後の進路、資格取得情報を開示している(<http://www.twmu.ac.jp/univ/medical/feature/course.php>)。

学内においては、卒業生の実績を(前述)また、講義、カリキュラムの内容について年1回アンケート形式で学内からは助教以上から意見を収集し教員に Feedback を行っている(前述)、学外からは卒業生実態調査(7.3 参照)などを介して意見を求める。

改善状況を示す根拠資料

資料 7-4-2 質向上委員会内規(結果の開示)

資料 7-4-3 質向上委員会内規(卒業生調査)

8. 統轄および管理運営

8.4 事務と運営

基本的水準：適合

改善のための助言

教学にかかる事務組織および専門組織をさらに充実させるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

改善案：事務組織および専門組織の改組を行い、機能の充実を図る。

改善内容：2020年度に統合教育学修センターを開設した。同センターでは、事務系と教員が協力して、大学全体の教育の質向上のための解析や、大学での教育に必須の業務を担当する。

改善状況を示す根拠資料

資料 8-4-1 統合教育学修センター規程

9. 継続的改良

基本的水準：適合

改善のための助言

継続的改良を行うために、「医学教育の質向上委員会」の機能をさらに充実させるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

改善案：教学 IR 室からの情報を受け、プログラム改善、システム強化を推進し、実績を重ねていく。

改善内容：統合教育学修センター内に教学 IR チームを作った。同チームは、学内の教育成果に関して多角的なデータ解析と種々の委員会等への報告書の提出

により、各委員会での PDCA サイクルの実現を通して担当する機能の充
実と成果の向上を実施中である。

改善状況を示す根拠資料

資料 9-0-1 医学教育の質向上委員会議事録

資料 9-0-2 医師国試対策委員会提出資料